

観測史上、最も暑かったのだそうですが、この夏もインターハイと全国高総文祭の総合開会式といくつかの種目、部門の生徒の激励に行くことができました。昨日はインターハイで優勝した王寺工業の棒高跳び、桜井のカヌー、畝傍の弓道団体の選手がその報告に来てくれました。入賞の添上の陸上、奈良北の自転車等々のうれしい結果はもちろん、あの暑さの中、コンディションを整えて高いパフォーマンスを発揮した選手、指導者、支えてくださった皆様、そして開会式に参加してくれた「わっしょい倭」のみなさんにも感謝申し上げます。いよいよ来年は近畿インターハイですので、校長先生方にも御協力をお願いします。

全総文では磯城野高校のバトントワリング部のみなさんとお話をする時間をいただきましたが、自分たちで振り付けやフォーメーションを考えているとのことでした。経験者の生徒が仲間を集めて練習しているそうで、爽やかで素敵なパフォーマンスでした。

力作揃いの特別支援学校のアート展も拝見しました。8月21日には高校生議会があり、代表生徒の皆さんはよく調べてレベルの高い質問をしていました。御指導いただきました先生方へ、お礼を申し上げます。このような生徒の活動については、各校のWebページをスピーディーに更新し発信していただきたいと思います。受検機会が一本化され、中学生の受検動向が読みにくくなっていますが、彼らが行きたい学校を考える際の資料として、生き生きとした学校の様子を積極的に伝えていただきますようお願いします。

さて長期休業が明け、生徒の様子を特にしっかりと見ていただく必要がある時期です。また、校長先生には、労働安全衛生法を持ち出すまでもなく、教職員の健康保持にも努めていただかなければなりません。以前、中教審・働き方改革特別部会委員などを務められた妹尾昌俊氏の御講演を伺ったことがあります。そこで「生存者バイアス」という言葉を教えていただきました。「生存者バイアス」は失敗した対象や失われたデータを見ずに、成功、つまり生き残った対象だけを見て判断を下してしまうことで、正確な判断を妨げる可能性があります。

その講演で、妹尾さんは第二次世界大戦中の逸話を話されたのですが、アメリカの海軍分析センターの研究者は任務を終えて戻ってきた爆撃機を徹底的に調べ、最も損傷が多かった部位を強化すべく、装甲を施すよう提案します。そこに統計学者のエイブラハム・ウォールドが待ったをかけました。その提案には、いわゆる「生存者バイアス」が隠れているというのです。帰還した爆撃機の損傷箇所は致命的なものではなかったから戻ってくることができているのだと。戻ってこられなかった機体の損傷こそ致命傷となったものであり、手当てすべきはそういう箇所だというのです。戻ってこなかった飛行機を回収して損傷部位を調べるのは難しいので、ウォールドは帰還した飛行機の、被弾していない箇所を強化すべきだと提案したそうです。

学校に置き換えれば、校長先生方は長い教員生活の後半まで、平穏な日々だけではなかった

でしょうがこうしていらっしゃる訳ですから、御自身の経験だけを基に今の若手の先生方を見ていただいても間違いがあると思うのです。

京都の国立博物館だったか、文化財を修繕する職員がおっしゃったというエピソードを聞いたことがあるのですが、傷んだ布を直すのに新しい布を使うとき、その布の強度が高いと古い布をかえって傷付けることになる、修繕するものとされるものの力関係が違とうまくいかないと。もちろん人の場合は相手にもよるのでしょう。強く言われる方がよい結果を生むこともあるかもしれません。校長先生方の中には今の若い者はとか自分の若い頃はとか様々な思いがよぎる方もいらっしゃるかもしれませんが、いろいろな先輩に助けられた御自身の駆け出しの頃、未熟で不安を抱いた時のことを思い出していただき、しんどい思いをされている先生に寄り添って話を聞いていただきたいと思います。そういう関わり方はこれからの教職員の健康管理に生きるでしょうし、早めにストレス要因を除くことでお休みに至る前に対処ができるかもしれません。前にも申しましたが、4月1日の新採辞令交付式で、困ったら上司に相談すること、きっと助けてくれると伝えています。教員間の円滑な人間関係の構築に向けて、ベテラン、中堅教員の御指導も併せてお願いします。

次に国の動きに目を向けますと、7月4日開催の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会で、学習評価の在り方が議題となりました。報道もされたのでご存じと思いますが、現行の学習指導要領で示されている評価、特に「主体的に学習に取り組む態度」について「目標に準拠した評価」を採用し、結果として評定を左右するため、評価理由の客観的な説明が容易な定量的材料を用いざるを得ない、評価の状況によっては、よさや成長を適切に見取り、肯定的に伝えることが難しく、学ぶ意欲をかえって下げてしまう場合がある等々の指摘があり、これらの課題を踏まえつつ、1つには子供の学習や教師の指導の改善に繋げる、1つには学習評価の実施に係る過度な負担が生じないようにしつつ余白を創出する、という基本的な認識の下、学習評価の具体的な在り方の検討を進めていくことが確認されました。詳しくは文科省のWebページを確認していただきたいのですが、端的に述べますと、現在、観点「学びに向かう力・人間性」は「感性、思いやりなど」と「主体的に学習に取り組む態度」とに分けて、前者は個人内評価、後者は目標準拠評価としていたものを、「学びに向かう力・人間性」全体で個人内評価とする、つまり評定に加えず、総合所見欄等に反映する方向で検討されています。

現場で「主体的に学習に取り組む態度」の評価の難しさと、教員の負担に見合う教育効果の見えにくさに悩んでいた私個人としては、この方向性については歓迎していますが、高校入学者選抜で中学1、2年の調査書点をこの観点だけで見ることになっている本県の制度について、次期学習指導要領の全面実施まで維持するのか、議論が一定の結論を得た段階で見直すのか、県立校長会をはじめ関係者の御意見も伺いながら考えたいと思います。

また7月28日にも同部会が開催されましたが、その議題は「高等学校の教育課程等の改善」、

具体的内容は「柔軟な教育課程の在り方」、「産業教育の更なる改善」、「中高の円滑な接続に資する高等学校入学者選抜」等でした。教育課程の編成が今よりかなり柔軟にできるという方向ですので、是非確認願いたいのですが、入学者選抜の在り方について、生徒や地域の実情に鑑み、学力検査を行わないことができる選抜や、調査書を用いないことができる選抜の取扱い等について整理すべきとの考えが示されたことも今までとは異なります。これについても様々な御意見をお聞かせいただいて、検討したいと思います。

この後、各課からの連絡事項がありますが、私からも強く申し上げることが1つあります。他県の教員が児童生徒等を盗撮し、画像などをSNS上の教職員間のグループで共有し逮捕されたというおぞましい事案を受け、7月11日付けで服務規律の確保の徹底について通知した件です。こういった通知をしなければならぬというのは情けなく、残念でなりません。何より、被害児童や日々頑張ってくださり、信頼を築いてくださっているほとんどすべての先生方のことを思うと本当に腹立たしく思います。こう言うのと叱られるかもしれませんが、人の心の中まではなかなか分からないものであり、強い悪意の前にはどんな対策も無力化されかねません。そういう悪意を実際の行動に移すことができないような環境をつくるのが、こういった事案の根絶への近道だと思います。通知文にも、「被害を未然に防止する観点から、教師と児童生徒等が第三者の目が行き届きにくい環境となる場面をできる限り減らしていくことが重要」とあります。8月末までに全教職員に対して研修を行うこともお願いしていますが、教室、更衣室等の点検等を定期的の実施するとともに密室状態での指導を不可能にする教育指導体制を構築し、「児童生徒性暴力を発生させないための環境づくり」に取り組んでいただくようお願いします。

今月から学校訪問を再開します。知事も学校を見たいとおっしゃっていますので、御一緒するところもありますが、御対応よろしくお願いします。